

[N 2020 PLAN] 10年後の大学の姿を描くことから

平成11年には第5回これが、
スタートプランの柱は6つ。
①大学の教育・研究活動の
推進、②両附属高校の教育
の見直し、③入口・出口対
策、広報活動、④キャンパス
整備、⑤人員計画と適切
な人事の推進、組織の効率
化、⑥財務改革、その他、
であった。プランの始動か
ら五年が経過した今、4番
目のキャンパス整備につい
ては平成21年に九段キャン
パス3号館が完成し、1号
館についても急速に進む社
会の情報化に対応した改修
が進められている。
「平成25年度から、すべて
のキャンパス機能を九段に
集約する予定で準備を進め
ています。やはり、都心中

「都心・皇居や靖国神社など水と緑の環境に囲まれ、官庁や企業、市民などと交流がしやすく、アクセスが良い立地は大学にとって極めて魅力的です」と水戸理事長。

1番目の大学の教育・研究活動の推進、2番目の両附属高校の教育の見直し、3番目の入口・出口対策についても、毎月、法人・教育の合同会議を開き、進捗状況をチェックしてきた。

各課題の取り組みを進めているのはわかるのですが、もともとの目的であつた「21世紀の『松學舍像』」というものが、どうも明確に浮かんで来ない感があります。そこで、いつたい本学はどういう大学になつて、いつたらいいのか、学生から保護者、教職員、卒業生取引先に至るまで、本学の

**建学の精神に立ち返り
東アジアを視野に
入れたグローバル化を**

建学の精神に立ち返り
東アジアを視野に
入れたグローバル化を

二松學舎大学には、文学部と国際政治経済学部の二学部がある。文学部には、

です（水戸理事長）
今後、二松學舎大学がどう変わっていくかが楽しみだ。

意見は項目ごとにまとめ、来年の1・3・5周年記念式典で発表する予定だという。建学の精神に立ち返り東アジアを視野に入れたグローバル化を水戸理事長は、略歴にも記載されているとおり、長年、金融界を歩んできた人だけに、大きな改革の遂行策
えれば、まず、人が思い浮べるのは欧米ではないでしょうか。しかし、私は、これから時代に経済、そして文化の覇権を握るのは、中国や韓国、インドといったアジアの国々だと思います。つまり、今こそ、建学の精神に立ち返り、東洋の精神を学ぶべきだと、私自身が思っているのです。

「本学の創立者三島中洲は、當時の西洋偏重主義に抗して、東洋の精神文化を学び、日本人の本来の姿、道徳を知ることが大切だと、漢学塾・二松學舍を起こしました。今、グローバル化と言ふことは、かりでなく、グローバル化や情報化に対応した教育課程についても同様である。

試験に合格するような大学にするのか、10年後にはどのくらい合格者を出せるのか、など目標がはつきりすれば、アクションプランも立てやすくなります」（水戸理事長）

卷之三

ステークホルダーとなる人々全員から、10年後の二松學舎大学の姿について意見・提言を募ることにしたのです。またこの計画には数値目標を取り入れるなどユニークだ。しかも二松學舎を愛する心についてても人後に蒸らない。改革

式を取り入れるなどユニーケだ。しかも二松學舎を愛する心についても人後に落ちない。改革

A black and white photograph of the NHK Broadcast Center, a prominent Art Deco-style building in Tokyo. The building features a stepped, multi-story facade with a grid of windows and decorative elements. It is situated in a cityscape with other buildings, trees, and a road with moving vehicles in the foreground.

都心の一等地に建つ九段キャンパス1号館(千代田区三番町)

ザ
大
学
人
シリーズ

大学教育は、今、少子化とグローバル化、そして情報化という社会の大きな流れを受け、抜本的な改革を迫られている。来年、創立135周年を迎える「松學舎大学」では、平成17年、「21世紀の一松學舎像を策定するマスター・プラン」を制定、改革に努めてきた。本年9月、理事長に就任した水戸英則氏に今後の方針について聞く。